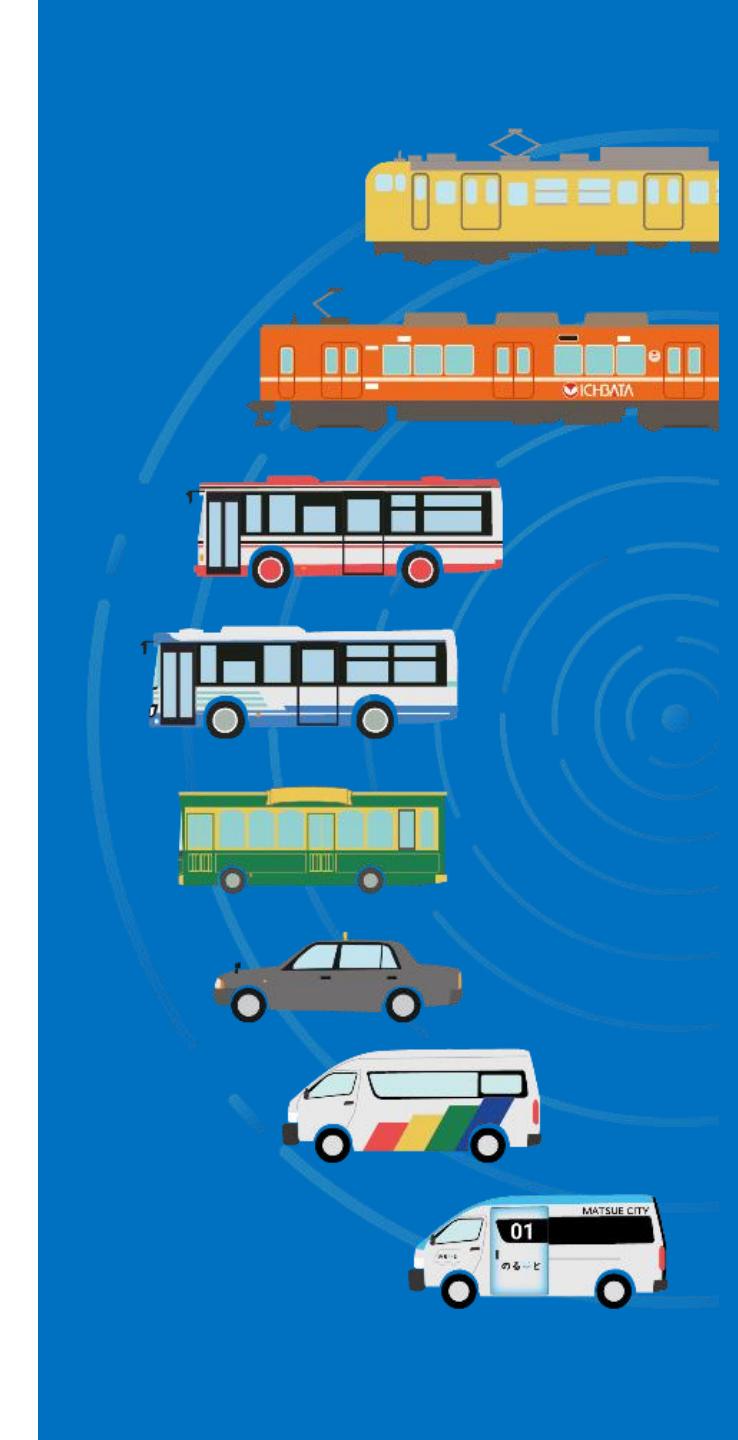


自動運転実証運行に向けた取組み

総務省「地域社会DX推進パッケージ事業（自動運転レベル4検証タイプ）」の採択について

R7.5.19

令和7年度 第1回 松江市公共交通利用促進市民会議
第6回 公共交通で暮らしやすい未来を実現するプロジェクトチーム（PT）



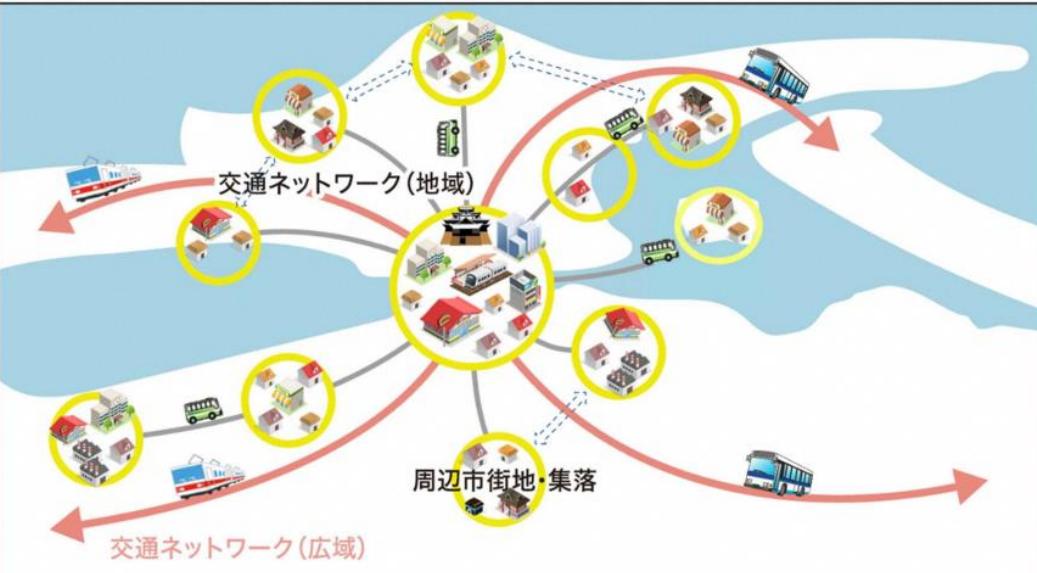
基本理念

松江市民みんなでつくるだれもが安心して、やさしく移動できるまち・松江

コンパクト・プラス・ネットワーク

「市域内のバランスのとれた発展」を実現するため、中心市街地と周辺部・旧町村部の市街地や集落など既存のコミュニティを相互に交通ネットワークでつなぐ「コンパクト・プラス・ネットワーク」の構築を目指す

図：コンパクト・プラス・ネットワークのイメージ



基本戦略と施策

基本戦略 ①	輸送資源を総動員し、持続可能な公共交通ネットワークを構築する	施策1 公共交通ネットワークの再構築 施策2 幹線の維持・確保 施策3 支線の維持・確保 施策4 新たなモビリティや技術の導入・検討 施策5 旅客需要を創出する運賃体系の整備 施策6 事業者間での路線・ダイヤ・運賃等にかかる調整の円滑化 施策7 公共交通サービスの担い手確保
	デジタル技術を活用し、公共交通の利便性を向上する	施策1 情報提供やシステム化の推進 施策2 交通データの利活用による利便性向上
	まちのにぎわいにつながる、人と環境にやさしい公共交通を整備する	施策1 まちづくりと連携した交通結接点の機能確保・向上 施策2 公共交通の利用環境の改善 施策3 脱炭素化の推進
	市民・民間企業・交通事業者・行政が協働し、公共交通の利用を促進する	施策1 市民会議との協働により公共交通を支える仕組みの再構築 施策2 利用促進・利用意識の醸成



自動運転バス実証実験の取組経過

経過

R6.10.4 ソフトバンクとの事業連携協定（自動運転）

R6.11.8 「自動運転WG」立ち上げ

R6.12.23 令和6年度第4回公共交通で暮らしやすい未来を実現するプロジェクトチーム
・第3回PT以降の経過報告にて「自動運転実証実験」取組概要を報告



松江市公共交通利用促進市民会議

本会議の部会として下記プロジェクトチームを設置

公共交通で暮らしやすい未来を実現するプロジェクトチーム

「松江市地域公共交通計画」の方針に基づき、有識者の意見を踏まえ、

公共交通全体の在り方を検討

検討内容報告・協議

有識者からの意見・提案

実行組織

①路線バスWG

路線バスの具体的な路線再編を検討

②タクシーWG

タクシー事業の課題解決・利用促進と
公共交通としての役割について検討

③新たなモビリティWG

新たなモビリティの導入検討
社会実験実施

④自動運転WG（地域コミッティ）

自動運転の導入に向けた検討

構成団体名

中国運輸局 自動車技術安全部技術課

島根運輸支局

中国地方整備局 松江国道事務所計画課

中国経済産業局 地域経済部デジタル経済課

島根県警察本部 交通部交通企画課 交通規制課

松江警察署

島根県 交通対策課

一畠バス株式会社

松江市交通局

島根県旅客自動車協会

ソフトバンク株式会社

松江市 まちづくり部

1

運転士不足対策

コロナ禍及びいわゆる「2024年問題」の影響を受け、運転士不足に起因する市内バス路線の廃止・減便が続いているところ。**中・長期的なスパンで運転士不足対策に貢献するもの**

2

おでかけ需要の創出

新しい交通モードの導入により、市民の皆様の新たなおでかけ需要を創出し、**賑わい・活力あるまちづくりに貢献するもの**

3

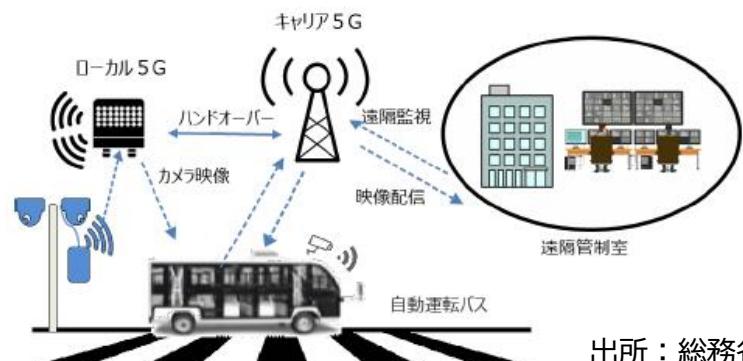
まちの魅力向上

先進的取組にチャレンジするまち 松江 として、DX(Ruby City MATSUE)・GX（脱炭素先行地域・SDGs未来都市）の観点から、**まちの魅力向上に貢献するもの**

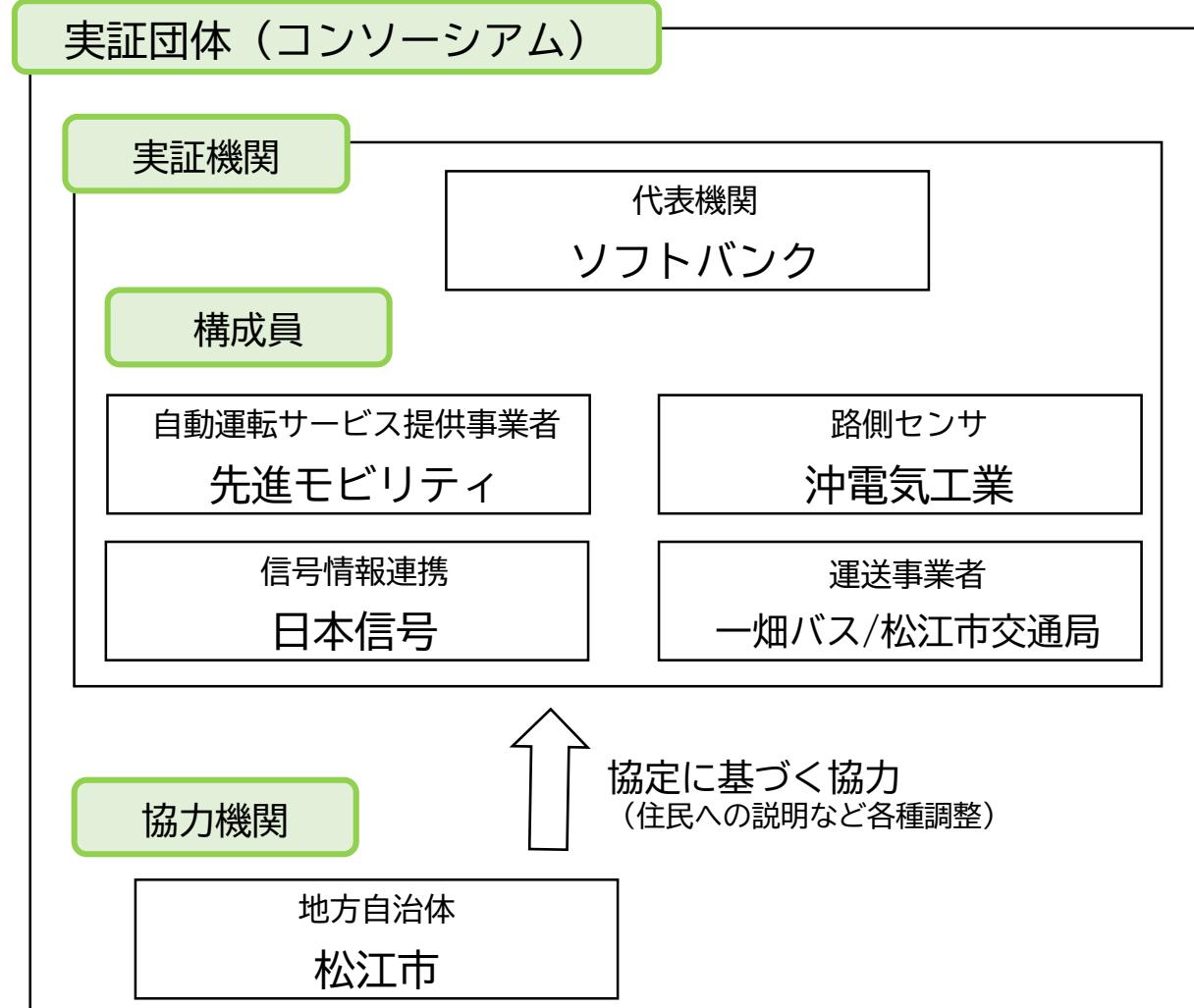
令和7年度実証事業概要①

総務省「地域社会DX推進パッケージ事業 (自動運転レベル4検証タイプ)」

事業の目的	自動運転に必要な通信システムの要件を実証事業により検証し、地域限定型のレベル4自動運転移動サービスの社会実装を支援
委託費	最大2.5億 ※車両購入は不可
申請主体	コンソーシアム
採択団体数	10団体 (コンソーシアム)



コンソーシアム (松江市)



本市における自動運転バス導入のユニークネス（独自性）

Point
1

中心市街地での運行

県庁所在地の中心市街地
を通る幹線道路を走行

交差点や見通しの悪い箇所における安全性の確保

交通量の多い道路において既存の交通へ影響を生じさせない運行をめざす

Point
2

降雪地域での運行

冬季の降雪・積雪を
クリアする運行形態

路面凍結・降雪、吹雪などによる見通しの悪さ、着雪の影響などを踏まえたシステムの構築

降雪地域ならではの知見やノウハウを蓄積し、冬季における安全な運行の実現をめざす

Point
3

既存路線への展開

既存バス路線の
自動運転化をめざす

一部区間ではなく、始点から終点まで自動運転（レベル4）で運行

運転士を他の路線へ配置することで本市公共交通の路線維持、市民の利便性確保を図る

松江市の地域特性を生かし、持続可能で他地域への横展開が見込める
自動運転バス・ロールモデルの構築をめざす

ロードマップ

R9年度にレベル4の許認可取得し本格運行へ

R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)
ソフトバンクと の事業連携協定	実証実験	実証実験 一部区間でL4 認可先行取得	L4許認可取得	事業化 ※事業化に向けては実証実験の結果 を踏まえ別途検討		
計画立案調査	実証実験 試乗	実証実験 試乗	実証実験 試乗	本格運行	運転士なしでの実運行の タイミングは別途協議・検討	
<ul style="list-style-type: none"> ・ レベル4へ向けた想定課題への 対応 ・ 社会受容性の向上 ・ インフラ協調の有効性の検証 <p>実証走行：秋ごろ 運行時間帯：朝夕のピーク時を 避けて運行</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全区間で自動運転走行を行う ・ 一部区間でL4許認可を先行取得 <p>R8(2026)年度は、国土交通省の 補助事業の活用を検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ L4許認可取得し、本格運行 を目指す 				